

STUDENT'S MANUAL

# 学生便覧 2019

O C T



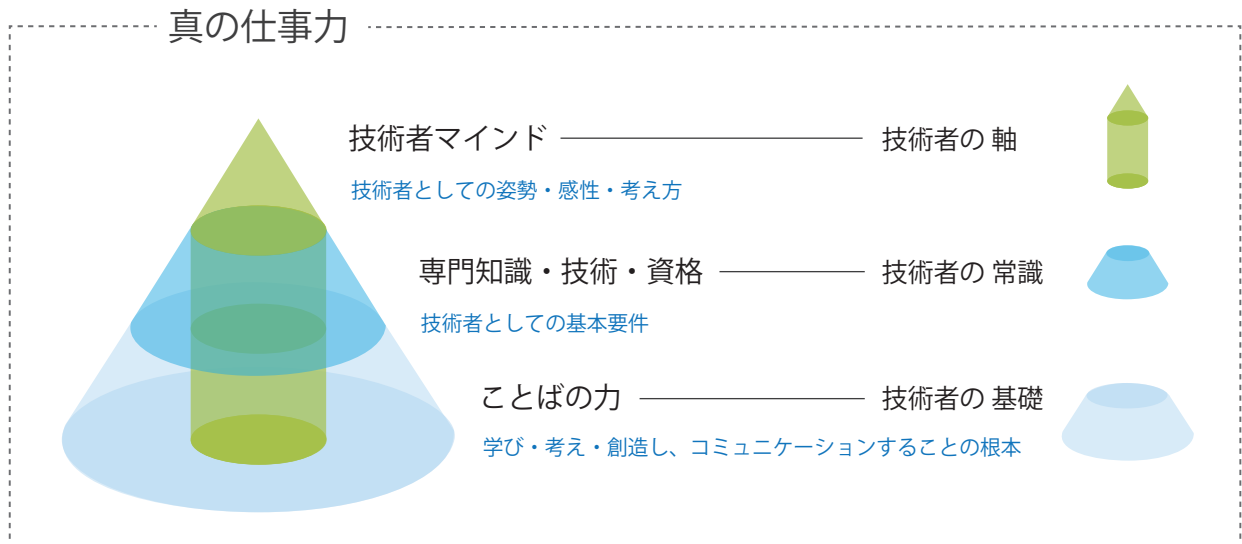
大阪工業技術専門学校  
OSAKA COLLEGE OF TECHNOLOGY

**【抄録版】**

本紙は、大阪工業技術専門学校の2019年度版『学生便覧』より諸方針・諸規定を抄録したものである。

## 教育目的

本校は、専門知識・技術の修得、資格の取得はもちろんのこと、学び・考え・創造し・コミュニケーションすることの根本である「ことばの力」を強化し、それを基礎として技術者の姿勢・感性・考え方である「技術者マインド」を自身の軸として身につけた技術者を育成することを目的とする。本校では、そのような技術者を「真の仕事力」をそなえた技術者と定める。



## ディプロマ・ポリシー（卒業の認定に関する方針）

本校では、「真の仕事力」に関わる以下の能力を身につけ、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した者に対して卒業を認定する。

### 技術者マインド

「技術者マインド」とは、優秀な技術者が持っている基本的な姿勢や感性、考え方などを総称する。それは頭だけでなく身体もつかいながら考え、人やモノとの関わり方などを心得た、広く技術者として必要なマインドといえ、これは技術者としてだけではなく、社会で活躍するためにも必要な要件である。

#### 1. 技術者の姿勢

専門知識や技術の習得だけでなく、整理整頓・モノをきっちりそろえる習慣、モノを丁寧に扱うこと、時間厳守・納期を守ること、ルール・マナーを守ることなどの技術者としての基本姿勢を身につけている。またそうした技術者の姿勢が大切であると理解している。

#### 2. 自分を知る

自分をすることで、学ぶべきこと、鍛えるべきことや進路など自分の将来像や目標をリアルに描くことができる（自己分析マップ）。また自分の感性や思考・行動を正確に知ることは、人の気持ちや考え方を理解する基点であることを理解している。

### 3. 相手を知る

人のためにモノやコトを生み出すために、価値観や感性の違う様々な人たちの考えや要望を知ろうとする姿勢が身につけており、相手を知り・共感することができなければ良いモノやコトはつくれないことを理解している。

### 4. 世界を知る

専門知識や技術を単純に知るだけでなく、モノの性質や可能性、コトの意義や背景、本質を知り、広く世界のしくみを知る姿勢が身につけている。そうした姿勢から、将来の職業と関わる業界の姿を思い込みでなくリアリティをもって知ること（業界マップ）が、より良い進路選択になることを理解している。

### 5. 頭と身体で創造する

頭だけで考えてもより良い創造はできないことを理解しており、しっかりとした知識・技術を基礎に、創造する環境を整え、頭だけでなく身体もつかいながら試行錯誤し、人とのコミュニケーションからアイデアを形にできることを理解している。

## ことばの力

思考力・判断力・創造力・プレゼンテーション力・コミュニケーション力などの根本には、「ことばの力」があることを理解しており、以下の「ことばの力」の基本を身につけている。さらに今後も「ことばの力」を研鑽していく意欲がある。

1. 基本的なことばの力（基本文書の読解、正しい慣用による作文、基本語彙力）
2. 専門知識・技術を学ぶためのことばの力（専門の語彙力、専門書の読解力）
3. 社会人として通用することばの力（ビジネス文書の読み書き、ビジネス会話）
4. 考えるためのことばの力（豊かな語彙力、文章の要点・意図の把握力、自己内対話）
5. コミュニケーションのことばの力（自分の考えの表現、相手の考えの理解、対話力）
6. 「ことばにできることで物事を理解できること」を理解（「ことばの力」の理解）

## 専門知識・技術・資格

「ことばの力」を基礎に、「技術者マインド」を軸に、技術者にとって必要な知識・技術の基本を身につけている。知識・技術を学ぶこと、資格を取得することはプロの技術者としてはあたりまえと考えており、最新の知識・技術にも常に関心を持ち、生涯にわたって学び続ける姿勢をもっている。

### 1. 知識

各専門分野で必要な知識の修得につとめており、知識が単なる情報の集積でなく自分自身のモノの考え方として活用され、知識のネットワークを今後も広げていく姿勢をもっている。

### 2. 技術

各専門分野で必要な技術の修得につとめており、その研鑽を続ける姿勢をもっている。それと同時に技術に対して常に批判的な視点を持っており、技術者としての必要な倫理観をもっている。

### 3. 資格

各専門分野で必要な資格の取得につとめている。しかし、資格取得のみを目的とせず、資格取得を通して上記の意味で知識・技術の強化につとめる姿勢をもっている。

## カリキュラム・ポリシー（教育課程編成及び実施に関する方針）

本校では、「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力を身につけるため、次のような編成方針、実施方針および成績評価基準に基づいて教育を実施する。

### 編成方針

1. 各分野の専門知識・技術を効果的に学べると共に、社会に貢献できる人間性を技術者教育を通して涵養するように「ディプロマ・ポリシー」に定めた「真の仕事力」の理念に合致する体系的な教育課程を編成する。
2. 教育課程を編成するに当たっては、全学科で技術者としての基本的かつ汎用的な知識・技術、数理能力、論理推定力、その他必要な力を修得できるように配慮して、科目配置を行い、授業計画を策定する。
3. 教育課程を編成するに当たっては、最新の知識・技術及び業界の動向や未来像に注視し、業界で求められる人材像を反映した授業計画を策定する。
4. 「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力をより深く身につけるために職業実践の現場での学びを重視し、インターンシップや実務経験のある教員を中心とした講義・実習などのプログラムを計画する。

### 実施方針

1. 「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力が、教育課程の中でどのように育成されるかを、科目毎にシラバスで「ディプロマ・ポリシー」で定められた能力と科目との対応を示し、それらを修得する方法をわかりやすく説明する。
2. 自ら学ぶ姿勢を育てるために、授業時間での学習はもちろんのこと、授業時間外での予習・復習を自主的に行わせ、教員への質問や授業支援システム（moodle）の利用を積極的に行わせる。
3. 成績評価は、各科目のシラバスに掲げられた評価基準を厳格に守り、評価の客観性・公平性をもったものとする。

### 成績評価基準

本校では、次のような成績評価基準を定めている。

1. 学期末における成績評価は、シラバスに示す評価方法に基づいて実施する。
2. 成績は100点法により採点し、評価は以下の「秀」・「優」・「良」・「可」・「不可」の5段階とし、成績は評価に応じて次表のとおりとする。ただし、卒業制作及びキャリアデザインにあつては「合」又は「否」を、特別講座及び企業研修にあつては認定された場合のみ「認定」と判定する。

秀（100～90点）

優（89～80点）

良（79～70点）

可（69～60点）

不可（59～0点）

## 単位認定の方針

カリキュラムポリシー、並びに以下の履修規定（第1条「授業科目」～第8条「卒業証書」）に基づいておこなう。  
 なお、第5条「単位の認定」についての認定基準の詳細は、科目ごとに作成しているシラバスによって示す。  
 また、科目外のその他の単位認定については、本章に示す通りとする。

## 履修規定

### 第1条 授業科目

工業専門課程各学科の授業科目は下表の通りである。

#### ロボット・機械学科

1 年次	専攻	科目	週時間数		単位数
			前期	後期	
必修 科目		基礎製図	4	4	4
		CAD実習Ⅰ	4	4	4
		製作実習基礎	8		4
		(小計)	16	8	12
選択 必修 科目	ロボ ット 機 械	製作実習Ⅰ		8	4
	電 気 機 械	製作実習Ⅰ		8	4
	(小計)		8	4	
選 択 科 目		コンピュータ演習	2	2	4
		工業数理	2		2
		材料力学Ⅰ	2		2
		図学	2		2
		電気概論	4		4
		工業材料	2		2
		材料力学Ⅱ		2	2
		加工技術		2	2
		要素設計		2	2
		電子回路		2	2
		ソフトウェア演習		2	2
		テクニカルイラスト		2	2
		流体力学		2	2
		(小計)	14	16	30
キャリアデザイン	2	2	2		
企業研修			(2)		
特別講座Ⅰ			(4)		
1年次合計	32	34	48		

進級条件
1年次必修科目・選択必修科目 16単位 1年次選択科目の中から20単位以上
総合計36単位以上

\*一部変更することがある。

2 年次	コース	科目	週時間数		単位数
			前期	後期	
必修 科目		CAD実習Ⅱ	4	8	6
		総合制作実習		4	2
		卒業制作		4	2
		(小計)	4	16	10
選 択 必 修 科 目	ロボ ット	製作実習Ⅱ	8	8	8
	機 械 技 能	製作実習Ⅱ	8	8	8
	電 気	製作実習Ⅱ	8	8	8
(小計)	8	8	8		
選 択 科 目		機械設計Ⅰ	4		4
		センサ技術	2		2
		プロダクトデザイン	4		4
		3D-CAD	4		4
		マイコン制御	2		2
		ロボット概論	2		2
		機械設計Ⅱ		4	4
		熱力学		2	2
		産業機械		2	2
		機械力学		2	2
		工業英語		2	2
		(小計)	18	12	30
		キャリアデザイン	2	2	2
		企業研修			(2)
特別講座Ⅱ			(4)		
2年次合計	32	38	50		
1, 2年次総合計	64	72	98		

卒業条件
2年次必修科目・選択必修科目 18単位 1・2年次選択科目の中から合計40単位以上
総合計74単位以上

# 建築学科

1年次	専攻	科目名	週時間数		単位数		
			前期	後期			
専門科目	必修科目	設計製図Ⅰ	4	4	4		
		建築製図Ⅰ	4	4	4		
		CAD設計製図Ⅰ		4	2		
		(小計)	8	12	10		
	選択必修科目	設計専攻	設計特論Ⅰa		4	4	
			設計特論Ⅰb		4	4	
			(小計)		8	8	
			施工専攻	施工特論Ⅰa		4	4
				施工特論Ⅰb		4	4
				(小計)		8	8
		選択科目	建築概論(造形演習)	2		2	
			構造力学演習	2		2	
			計画演習Ⅰ	2		2	
			計画演習Ⅱ		2	2	
		(小計)	6	2	8		
		基幹科目	建築計画Ⅰ	2		2	※
	建築計画Ⅱ			2	2	※	
	建築史Ⅰ		2		2	※	
	建築史Ⅱ			2	2	※	
	建築法規Ⅰ		2		2	★	
建築法規Ⅱ			2	2	★		
建築一般構造Ⅰ	2			2	★		
建築一般構造Ⅱ			2	2	★		
構造力学Ⅰ	2			2	★		
構造力学Ⅱ			2	2	★		
情報処理演習	2			2	☆		
(小計)	12	12	24				
キャリアデザインⅠ	2	2	2				
企業研修			(2)				
特別講座			(4)				
1年次合計	28	36	52				

進級条件
1年次必修科目10単位、 1年次基幹科目★※印欄の科目をいずれか必須とし、 その他の科目含め
総合計38単位以上

\*一部変更することがある。

2年次	コース	科目名	週時間数		単位数	
			前期	後期		
専門科目	必修科目	設計製図Ⅱ	4	4	4	
		建築製図Ⅱ	4	4	4	
		CAD設計製図Ⅱ	4		2	
		卒業制作		4	2	
	(小計)	12	12	12		
	選択必修科目	意匠	意匠特論Ⅰa	4		4
			意匠特論Ⅰb	4		4
			意匠特論Ⅰc	4		4
			意匠特論Ⅱa		4	4
			意匠特論Ⅱb		4	4
			(小計)		12	12
		構造	構造特論Ⅰa	4		4
			構造特論Ⅰb	4		4
			構造特論Ⅰc	4		4
			構造特論Ⅱa		4	4
			構造特論Ⅱb		4	4
			(小計)		12	12
		管理	管理特論Ⅰa	4		4
			管理特論Ⅰb	4		4
			管理特論Ⅰc	4		4
			管理特論Ⅱa		4	4
			管理特論Ⅱb		4	4
			(小計)		12	12
		技術	技術特論Ⅰa	4		4
			技術特論Ⅰb	4		4
			技術特論Ⅰc	4		4
			技術特論Ⅱa		4	4
			技術特論Ⅱb		4	4
			(小計)		12	12
	選択科目	CAD設計製図Ⅲ		4	2	
		建築計画Ⅲ		2	2	
		(小計)	0	6	4	
		(小計)	0	6	4	
	基幹科目	建築環境工学	2		2	※
		建築設備		2	2	※
		建築材料学Ⅰ	2		2	★
		建築材料学Ⅱ		2	2	★
		建築施工法Ⅱ	2		2	★
		建築積算		2	2	★
		(小計)	6	6	12	
キャリアデザインⅡ	2	2	2			
企業研修			(2)			
特別講座			(4)			
2年次合計	32	34	50			
1、2年次総合計	60	70	102			

卒業条件
2年次必須科目12単位、 1、2年次選択必修科目20単位以上、 1年次基幹科目の☆印4単位必須、 2年次基幹科目★印欄の科目をいずれか必須、 1、2年次基幹科目※印の科目を8単位以上必須、 1、2年次基幹科目の合計22単位以上 その他の科目含め
総合計78単位以上

## 設備環境デザイン学科

1年次		科目名	週時間数		単位数	
			前期	後期		
専門科目	必修科目	設計製図Ⅰ	4	4	4	
		建築製図Ⅰ	4	4	4	
		建築設備設計製図Ⅰa	4		2	
		建築設備設計製図Ⅰb	4	4	4	
		設備環境実験実習	4	4	4	
		設備環境デザイン概論	2	2	4	
		(小計)	22	18	22	
	選択科目	給排水衛生設備特論Ⅰ		2	2	
		空気調和設備特論Ⅰ		2	2	
		電気設備特論Ⅰ		2	2	
		資格対策講座(※)		2	2	
		(小計)		8	8	
		基礎科目	建築計画Ⅰ	2		2
	建築計画Ⅱ		2	2		★
	建築史Ⅰ	2		2		★
	建築史Ⅱ		2	2		★
	建築法規Ⅰ	2		2		★
	建築法規Ⅱ		2	2		★
	建築一般構造Ⅰ	2		2		★
建築一般構造Ⅱ		2	2		★	
構造力学Ⅰ	2		2		★	
構造力学Ⅱ		2	2		★	
情報処理演習	2		2		☆	
建築施工法Ⅰ		2	2		☆	
(小計)	12	12	24			
キャリアデザインⅠ		2	2	2		
企業研修				(2)		
特別講座				(4)		
1年次合計		36	40	56		

2年次		科目名	週時間数		単位数	
			前期	後期		
専門科目	必修科目	設計製図Ⅱ	4	4	4	
		建築製図Ⅱ	4	4	4	
		建築設備設計製図Ⅱa	4	4	4	
		建築設備設計製図Ⅱb	4	4	4	
		電気設備特論Ⅲ		4	4	
		卒業制作		4	2	
		(小計)	16	24	22	
		選択必修科目	給排水衛生設備特論Ⅲ		4	4
	空気調和設備特論Ⅲ			4	4	
	(小計)			8	8	
	選択科目	給排水衛生設備特論Ⅱ	2		2	
		空気調和設備特論Ⅱ	2		2	
		電気設備特論Ⅱ	2		2	
		F M基礎	2		2	
		設備環境デザイン特論	2		2	
		リフォーム・メンテナンス工学	2		2	
		資格対策講座(※)	2		2	
	(小計)	14		14		
	基礎科目	建築材料学Ⅰ	2		2	★
		建築材料学Ⅱ		2	2	★
建築施工法Ⅱ		2		2	★	
建築積算			2	2	★	
(小計)		4	4	8		
キャリアデザインⅡ		2	2	2		
企業研修				(2)		
特別講座				(4)		
2年次合計		36	38	54		
1,2年次総合計		72	78	110		

進級条件
1年次必修科目22単位、 1年次基幹科目★印欄の科目をいずれか必須とし、 その他の科目含め
総合計44単位以上

(※) 資格対策講座は履修申請により受講(最小開講人数5名)  
\*一部変更することがある。

卒業条件
2年次必須科目22単位、 選択必修科目4単位以上、 1年次基幹科目の☆印4単位必須、 2年次基幹科目★印欄の科目をいずれか必須、 1、2年次基幹科目の合計20単位以上 その他の科目含め
総合計82単位以上

## インテリアデザイン学科

1年次	科目名	週時間数		単位数		
		前期	後期			
専門科目	必修科目	設計製図Ⅰ	4	4	4	
		建築製図Ⅰ	4	4	4	
		デザイン基礎演習	4	4	4	
		インテリア概論	4	4	8	
		(小計)	16	16	20	
	選択科目	テクニカルⅠ	2		2	
		テクニカルⅡ	2		2	
		CAD基礎演習		4	2	
		(小計)	4	4	6	
	基幹科目	建築計画Ⅰ	2		2	※
建築計画Ⅱ			2	2		
建築史Ⅰ		2		2	※	
建築史Ⅱ			2	2		
建築法規Ⅰ		2		2	★	
建築法規Ⅱ			2	2		
建築一般構造Ⅰ		2		2	★	
建築一般構造Ⅱ			2	2		
構造力学Ⅰ		2		2	★	
構造力学Ⅱ			2	2		
情報処理演習		2		2	☆	
建築施工法Ⅰ			2	2		
(小計)	12	12	24			
キャリアデザインⅠ	2	2	2			
企業研修			(2)			
特別講座			(4)			
1年次合計	34	34	52			

進級条件
1年次必修科目20単位、 1年次基幹科目★※印欄の科目をいずれか必須とし、 その他の科目含め
総合計38単位以上

\*一部変更することがある。

2年次	科目名	週時間数		単位数		
		前期	後期			
専門科目	必修科目	設計製図Ⅱ	4	4	4	
		建築製図Ⅱ	4	4	4	
		スペースデザインa	4	4	4	
		スペースデザインb	4	4	4	
		卒業制作		4	2	
		(小計)	16	20	18	
	選択科目	インテリア特論	2		2	
		CAD応用演習Ⅰ	4		2	
		CAD応用演習Ⅱ		4	2	
		(小計)	6	4	6	
	基幹科目	建築環境工学	2		2	※
建築設備			2	2		
建築材料学Ⅰ		2		2	★	
建築材料学Ⅱ			2	2		
建築施工法Ⅱ		2		2	★	
建築積算			2	2		
(小計)		6	6	12		
キャリアデザインⅡ	2	2	2			
企業研修			(2)			
特別講座			(4)			
2年次合計	30	32	38			
1、2年次総合計	64	66	90			

卒業条件
2年次必須科目18単位、 1年次基幹科目の☆印4単位必須、 2年次基幹科目★印欄の科目をいずれか必須、 1、2年次基幹科目※印の科目を8単位以上必須、 1、2年次基幹科目の合計22単位以上 その他の科目含め
総合計72単位以上



## 大工技能学科

1年次		科目名	週時間数		単位数	
			前期	後期		
専門科目	必修科目	設計製図Ⅰ	4	4	4	
		建築製図Ⅰ	4	4	4	
		建築技能実習Ⅰ	4	4	2	
		建築技能実習Ⅱ	4	4	2	
		建築技能実習Ⅲ	4	4	2	
		木構造設計製図	2	2	2	
		(小計)	22	22	16	
	基幹科目	建築計画Ⅰ	2		2	※
		建築計画Ⅱ		2	2	※
		建築史Ⅰ	2		2	※
		建築史Ⅱ		2	2	※
		建築法規Ⅰ	2		2	★
		建築法規Ⅱ		2	2	★
建築一般構造Ⅰ		2		2	★	
建築一般構造Ⅱ			2	2	★	
構造力学Ⅰ		2		2	★	
構造力学Ⅱ			2	2	★	
情報処理演習		2		2	☆	
建築施工法Ⅰ			2	2	☆	
(小計)		12	12	24		
キャリアデザインⅠ		2	2	2		
企業研修				(2)		
特別講座				(4)		
1年次合計		36	36	42		

2年次		科目名	週時間数		単位数	
			前期	後期		
専門科目	必修科目	設計製図Ⅱ	4	4	4	
		建築製図Ⅱ	4	4	4	
		建築技能実習Ⅳ	4	4	2	
		建築技能実習Ⅴ	4	4	2	
		建築技能実習Ⅵ	4	4	2	
		卒業制作		4	2	
		(小計)	20	24	16	
	選択科目	CAD設計製図Ⅰ	4		2	★
		CAD設計製図Ⅱ		4	2	★
		(小計)	4	4	4	
基幹科目	建築環境工学	2		2	※	
	建築設備		2	2	※	
	建築材料学Ⅰ	2		2	★	
	建築材料学Ⅱ		2	2	★	
	建築施工法Ⅱ	2		2	★	
	建築積算		2	2	★	
	(小計)	6	6	12		
	キャリアデザインⅡ		2	2	2	
	企業研修				(2)	
	特別講座				(4)	
	2年次合計		32	36	34	
	1、2年次総合計		68	72	76	

進級条件
1年次必修科目16単位 1年次基幹科目★※印欄の科目をいずれか必須とし、 その他の科目含め
総合計32単位以上

\*一部変更することがある。

卒業条件
2年次必須科目16単位、 1年次基幹科目の☆印4単位必須、 2年次基幹科目及び選択科目の★印欄科目をいずれか必須、 1、2年次基幹科目※印の科目を8単位以上必須、 1、2年次基幹科目の合計22単位以上 その他の科目含め
総合計64単位以上

## 建築設計学科

1年次	科目名	週時間数		単位数		
		前期	後期			
専門科目	必修科目	設計製図Ⅰ	6	6	4	
		建築製図Ⅰ	4	4	4	
		CAD設計製図Ⅰ		4	2	
		設計演習Ⅰ	4	4	4	
		(小計)	14	18	14	
	選択科目	構造力学演習	2		2	
		図学	2		2	
		意匠設計特論Ⅰ		2	2	
		構造設計特論Ⅰ		2	2	
		建築概論(木造設計特論)		2	2	
		(小計)	4	6	10	
	基幹科目	建築計画Ⅰ	2		2	※
		建築計画Ⅱ		2	2	
		建築史Ⅰ	2		2	※
		建築史Ⅱ		2	2	
		建築法規Ⅰ	2		2	★
		建築法規Ⅱ		2	2	
		建築一般構造Ⅰ	2		2	★
		建築一般構造Ⅱ		2	2	
構造力学Ⅰ		2		2	★	
構造力学Ⅱ			2	2		
情報処理演習		2		2	☆	
建築施工法Ⅰ			2	2		
(小計)		12	12	24		
キャリアデザインⅠ	2	2	2			
企業研修			(2)			
特別講座			(4)			
1年次合計	32	38	50			

2年次	分野	科目名	週時間数		単位数		
			前期	後期			
専門科目	必修科目	設計製図Ⅱ	6	6	4		
		建築製図Ⅱ	4	4	4		
		CAD設計製図Ⅱ	4		2		
		設計演習Ⅱ	4		2		
		卒業制作		4	2		
		(小計)	18	14	14		
	選択必修科目	意匠設計	意匠設計特論Ⅱ	4		4	
			意匠設計特論Ⅲ a		4	4	
			意匠設計特論Ⅲ b		4	4	
		構造設計	構造設計特論Ⅱ	4		4	
			構造設計特論Ⅲ a		4	4	
			構造設計特論Ⅲ b		4	4	
	(小計)	4	8	12			
	選択科目	CAD設計製図Ⅲ		4	2		
		建築計画Ⅲ		2	2		
		建築構造学	2		2		
		建築士試験演習Ⅰ	2		2		
		建築士試験演習Ⅱ		2	2		
		(小計)	4	8	10		
	基幹科目	建築環境工学	2		2	※	
		建築設備		2	2		
		建築材料学Ⅰ	2		2	★	
		建築材料学Ⅱ		2	2		
		建築施工法Ⅱ	2		2	★	
		建築積算		2	2		
		(小計)	6	6	12		
		キャリアデザインⅡ	2	2	2		
企業研修				(2)			
特別講座				(4)			
2年次合計	34	38	50				
1、2年次総合計	66	76	100				

注) 選択必修科目は履修申請により受講(最小開講人数5名)

進級条件
1年次必修科目14単位、 1年次基幹科目※★印欄の科目をいずれか必須とし、 その他の科目含め
総合計40単位以上

\*一部変更することがある。

卒業条件
2年次必須科目14単位、 選択必修科目12単位以上、 1年次基幹科目の☆印4単位必須、 2年次基幹科目★印欄の科目をいずれか必須、 1、2年次基幹科目※印の科目を8単位以上必須、 1、2年次基幹科目の合計22単位以上 その他の科目含め
総合計80単位以上

## 建築学科Ⅱ部

1年次		科目名	週時間数		単位数		
			前期	後期			
専門科目	必修科目	設計製図Ⅰ	4	4	4		
		構造力学演習Ⅰ	2		2		
		構造力学演習Ⅱ		2	2		
		計画基礎演習Ⅰ	2		2		
		計画基礎演習Ⅱ		2	2		
		(小計)	8	8	12		
	選択科目						
		(小計)	0	0	0		
		基幹科目	1群	建築計画Ⅰ	2		2
				建築計画Ⅱ		2	2
				建築史Ⅰ	2		2
建築史Ⅱ				2	2		
建築法規Ⅰ	2				2		
建築法規Ⅱ				2	2		
2群	建築一般構造Ⅰ		2		2		
	建築一般構造Ⅱ			2	2		
	構造力学Ⅰ		2		2		
	構造力学Ⅱ			2	2		
	情報処理演習		2		2		
	建築施工法Ⅰ			2	2		
	建築基礎演習Ⅰa	1	1	1			
	建築基礎演習Ⅰb	1	1	1			
	建築基礎演習Ⅰc	1	1	1			
	建築基礎演習Ⅰd	1	1	1			
	建築基礎演習Ⅰe	1	1	1			
	(小計)	17	17	29			
企業研修					(2)		
特別講座					(4)		
1年次合計			25	25	41		

進級条件
1年次必修科目 12単位 その他の科目含め
総合計24単位以上

\*一部変更することがある。

2年次		科目名	週時間数		単位数	
			前期	後期		
専門科目	必修科目	設計製図Ⅱ	4	4	4	
		CAD設計製図Ⅰ	4		2	
		CAD設計製図Ⅱ		4	2	
		卒業制作		4	2	
		(小計)	8	12	10	
		計画演習Ⅰ	2		2	
	選択科目	計画演習Ⅱ		2	2	
		構造演習Ⅰ	2		2	
		構造演習Ⅱ		2	2	
		(小計)	4	4	8	
		建築設計演習Ⅰ※1	2		2	
		建築設計演習Ⅱ※2		2	2	
	(小計)	2	2	4		
基幹科目	1群	建築環境工学	2		2	
		建築設備		2	2	
		建築材料学Ⅰ	2		2	
		建築材料学Ⅱ		2	2	
		建築施工法Ⅱ	2		2	
		建築積算		2	2	
	2群					
	建築基礎演習Ⅱa	1	1	1		
	建築基礎演習Ⅱb	1	1	1		
	建築基礎演習Ⅱc	1	1	1		
	建築基礎演習Ⅱd	1	1	1		
	建築基礎演習Ⅱe	1	1	1		
	(小計)	11	11	17		
企業研修					(2)	
特別講座					(4)	
2年次合計			25	29	39	
1、2年次総合計			50	54	80	

卒業条件
2年次必修科目 10単位 2年次選択必修科目の中から4単位 1、2年次基幹科目 46単位 その他の科目含め
総合計72単位以上

※1、※2はそれぞれ計画演習Ⅰ・Ⅱと一体授業

「卒業制作」の認定は選択必修科目の中から6単位取得によることができる

## フレックス建築学科Ⅱ部

単位制	科目名	週時間数		単位数		
		前期	後期			
専門科目	必修科目	設計製図Ⅰ	4	4	4	
		設計製図Ⅱ	4	4	4	
		構造力学演習Ⅰ	2		2	
		構造力学演習Ⅱ		2	2	
		計画基礎演習Ⅰ	2		2	
		計画基礎演習Ⅱ		2	2	
		CAD設計製図Ⅰ	4		2	
		CAD設計製図Ⅱ		4	2	
		卒業制作		4	2	
		(小計)	16	20	22	
	選択自由科目	計画演習Ⅰ	2		2	
		計画演習Ⅱ		2	2	
		構造演習Ⅰ	2		2	
		構造演習Ⅱ		2	2	
		建築設計演習Ⅰ	2		2	
		建築設計演習Ⅱ		2	2	
		(小計)	6	6	12	
	基幹科目	必修科目	建築計画Ⅰ	2		2
			建築計画Ⅱ		2	2
建築史Ⅰ			2		2	
建築史Ⅱ				2	2	
建築法規Ⅰ			2		2	
建築法規Ⅱ				2	2	
建築一般構造Ⅰ			2		2	
建築一般構造Ⅱ				2	2	
構造力学Ⅰ			2		2	
構造力学Ⅱ				2	2	
建築施工法Ⅰ				2	2	
建築施工法Ⅱ			2		2	
建築環境工学			2		2	
建築設備				2	2	
建築材料学Ⅰ		2		2		
建築材料学Ⅱ			2	2		
(小計)		16	16	32		
選択自由科目		情報処理演習	2		2	
		建築積算		2	2	
		建築基礎演習Ⅰa	1	1	1	
		建築基礎演習Ⅰb	1	1	1	
		建築基礎演習Ⅰc	1	1	1	
		建築基礎演習Ⅰd	1	1	1	
		建築基礎演習Ⅰe	1	1	1	
		建築基礎演習Ⅱa	1	1	1	
		建築基礎演習Ⅱb	1	1	1	
		建築基礎演習Ⅱc	1	1	1	
		建築基礎演習Ⅱd	1	1	1	
		建築基礎演習Ⅱe	1	1	1	
		(小計)	12	12	14	
	総合計		50	54	80	

※各授業科目の履修等については、校長が別に定める。

※1年間で履修登録できる上限は41単位とする。

※「卒業制作」の認定は、選択自由科目の中から2単位取得によることできる。

卒業条件
専門科目（必須科目）22単位
基幹科目（必須科目）32単位
総合計54単位以上

\*一部変更することがある。

## 建築士専科

1年次	科目名	週時間数		単位数	
		前期	後期		
必修科目	建築計画Ⅰ	2		2	
	建築計画Ⅱ	4		4	
	建築一般構造Ⅰ	2		2	
	建築一般構造Ⅱ	4		4	
	建築法規Ⅰ	2		2	
	建築法規Ⅱ	4		4	
	建築施工法Ⅰ	2		2	
	建築施工法Ⅱ	4		4	
	構造力学・建築材料	4		4	
	課題演習	6		6	
	キャリア・デザイン	2		2	
	建築設計製図		12	6	
	ビジネス講座		2	2	
	(小計)	36	14	44	
	選択科目	特別講義Ⅰ		2	2
		特別講義Ⅱ		2	2
		建築積算講座		2	2
		2級建築施工管理技士		2	2
		危険物取扱講座		2	2
(小計)		10	10		
総合計		36	24	54	

### 卒業条件

必須科目44単位、選択科目6単位以上  
総合計50単位以上

\*一部変更することがある。

## 第2条 単位の算定

1. 講義・演習については、教室内における1時間の講義等に対して、教室外における2時間の準備のための学習を必要とするものとし、15～30時間の講義・演習をもって1単位とする。
2. 実験・実習及び製図の授業については、学習はすべて実験室・教室等で行われるものとし30～45時間の実験又は実習をもって1単位とする。
3. 1年間継続する科目は、前期、後期試験を含めた学年末の成績審査に合格した上で所定の単位を与える。ただし半分の単位は与えない。
4. 半期（前期または後期）のみの科目は、試験を含めた学期末の成績審査に合格した上で所定の単位を与える。

## 第3条 履修の方法

1. 履修は各学科とも基本的に自動登録となっているため、履修申請をする必要はない。  
※但し、フレックス建築学科は、全科目履修申請が必要となります。  
※また、建築学科、建築設計学科、設備環境デザイン学科の選択必修科目も履修申請が必要となります。  
それぞれの学科で必修科目、選択科目等、科目区分が決められているが、基本的に全科目を履修し単位を修得することが望ましい。
2. 不合格となった科目を再履修する時も自動登録となるため、履修申請をする必要はない。
3. 既に単位を修得した科目の成績評価を変更することはできない。  
※外国人留学生については別に定める事項がある。

## 第4条 試験

1. 試験は、学期末試験およびその再試験および再履修試験、並びに中間試験を含むその他試験とする。
2. 学期末試験は、前期および後期末に授業時間内に行う試験をいう。
  - ①時間割 前期、後期とも試験開始の約2週間前に掲示する。
  - ②注意 次の各項の注意事項をよく読んで、正しい態度で受験すること。
    - (1) 試験は必ず指定された教室、座席で受けなければならない。
    - (2) 学生証は、必ず携帯しなければならない。忘れた場合は、事務室で仮学生証の交付を受けること。学生証は、各試験時に机上にて提示すること。
    - (3) 試験時間中は、携帯電話等の電子機器類の電源を切っておくこと。
    - (4) 教科書・ノート・電卓等は、科目担当の教員が認めない限り使用できない。
    - (5) 試験開始後25分を経過した場合は受験できない（25分以内の遅刻は認める）。試験開始後25分以内は、答案の提出及び退室はできない。
    - (6) 答案用紙には、学籍番号、クラス、出席番号、氏名をはっきり書かなければならない（これらの記入がない答案は無効とする）。
3. 再試験は、病気、忌引、災害、就職試験、交通機関の延着、によって学期末試験を受験できなかった者に対して行う試験をいう。
4. 再試験受験希望者は所定の再試験受験願を指定の期日までに診断書又は正当な証明書を添えて事務室に提出して許可を得なければならない。申込みをした者に限り受験を認める。
5. 再履修試験は、前年度以前に不合格となった科目を再履修した者に対して行う試験をいう。
6. 再履修試験は、学期末試験に準じた方法で行う。
7. 再履修試験受験のほか、各科目担当教員の指示に従い単位に応じた学修を行った者のみが合否の判定対象となる。
8. 中間試験は、前期および後期の中間期に授業時間内に行う試験をいう。試験の実施の有無や実施時期等

は教科担当教員が指示をする。

9. 中間試験以外のその他試験（小テスト等）も、授業時間内に行う。その実施方法、評価判定方法等については教科担当教員が指示をする。
10. 建築士専科は学期末試験および中間試験を行わない。ただし、試験の必要があれば、随時その授業時間で実施する。

#### 第5条 単位の認定

授業科目を履修し（原則として出席率が80%以上を履修と見なす）、その審査に合格したものには、所定の単位を与える。審査は、各科目で定める方法による。

#### 第6条 成績の評価

成績の評価は秀・優・良・可・不可の5種をもって表し、秀（100～90点）・優（89～80点）・良（79～70点）・可（69～60点）を合格、不可（59点以下）を不合格とする。なお、特別科目については、合格又は、認定とする。

#### 第7条 単位修得の確認

単位修得および成績の確認は成績通知書による。

成績発表後一週間以内に疑義のある者は各科目担当者又は、事務室へ問い合わせること。

一部の学生の成績通知書は年2回（前、後期試験の成績発表後）保護者宛てに郵送する。

#### 第8条 卒業証書（学年制）

所定の修業年限に達し、卒業に必要な単位数を修得した者には卒業証書を授与する。

但し、学費未納の場合は、卒業証書を発行しないことがある。

又、修業年限2年の学科卒業で文部科学大臣告示日以降に当該認定学科を卒業した者は同大臣告示により専門士（工業専門課程）と称することができる。

尚、フレックス建築学科（単位制）については、本校所定の課程を修了し所定の試験に合格した者には別様式の卒業証書を授与する。（※専門士と称することはできません）

# GPA について

GPA（Grade Point Average：グレード・ポイント・アベレージ）とは、履修科目の成績評価を GP（Grade Point：グレード・ポイント）に換算し、1 単位あたりの平均値を表したものである。GPA は、国際標準的な成績評価方法として、世界各国で広くつかわれており、日本でも多くの高等教育機関で導入されている。本校でも、特筆すべき学修成果を修めた者を進級特待生として選定する際の資料として活用しており、その他成績判定の資料として以前より導入してきたが、改めて 2019 年入学生より正式に導入している。GPA により、履修科目トータルの成績評価が数値として示されるため、学生にとっては総合的な学修到達度が把握しやすくなり、教員は学修指導の際の指標として活用できる。また、GPA は留学の際の学力判定の指標や国費外国人留学生の審査基準（延長申請）ともなるなど、国内外で国際的な成績評価基準となっている。

## 1. GPA の算出方法

### ① GP と評価（評点）

判定	評価	評点	GP
合格	秀	100～90点	4
	優	89～80点	3
	良	79～70点	2
	可	69～60点	1
不合格	不可	59点以下	0

### ② GPA 計算式

$$\text{GPA} = \frac{\text{(GPA算出の対象科目の単位数} \times \text{GP) の合計}}{\text{GPA算出の対象科目の単位数の合計}}$$

### ③ GPA 計算例

科目名	単位数	評価	評点	GP	単位数×GP
設計製図Ⅰ	4	秀	95	4	16
構造力学Ⅰ	2	優	83	3	6
計画演習Ⅰ	2	良	76	2	4
CAD実習Ⅰ	4	可	64	1	4
図学	2	不可	48	0	0
合計	(a) 14	—	—	—	(b) 30
GPA	(b)30 ÷ (a)14 = <b>2.14</b> 小数点第3位を四捨五入				

## 2. GPA 算出の対象科目・対象除外科目

### ①対象科目

履修登録した全授業科目（不可及履修無効を含む）

### ②対象除外科目

- (1) 卒業要件の単位に含まれない科目
- (2) 大学・専門学校等で取得した単位の認定科目（成績評価のないもの）
- (3) その他科目

※ (3) については、学科により取り扱いが異なるので、詳細は学科担当に問い合わせること。

### 3. 学期・年度 GPA と通算 GPA

学期・年度 GPA	特定の学期・学年に履修した授業科目を対象に算出する。
通算 GPA	入学時から現在までの履修した授業科目を対象に算出する。

### 4. GPA 対象科目の履修登録取消

GPA は、原則としてすべての履修科目により算出される。科目の受講を途中でやめた場合にも GP は 0 となり、GPA を下げることとなる。それを避けたい場合は、GPA 対象科目の履修登録取消ができる。履修が確定した GPA 対象科目について、授業開始から 4 週間後に、履修登録取消の手続きを行う期間が設定され、履修登録の取り消しを行うことができる。所定の手続きを行い履修登録を取り消した授業科目は、GPA の算出の対象にはならない。

ただし、以下の点には注意すること。

- ① 所定の手続きを行わないで受講を取りやめた場合は、GPA の算出の対象となる。
- ② 必修科目や基幹科目など、履修登録の取り消しができない科目がある。
- ③ 登録取消の期間や手続き等は、学科により異なる場合があるので、教員または事務職員に確認すること。
- ④ GPA 対象除外科目には適用されない。

### 5. 本校での GPA の活用（成績評価の客観的指標）

本校では、主として次の事項の参考資料として活用する。

- ① 学生の学修指導
- ② 進級特待生の選定（1 年次に特筆すべき学修成果を修めた者に対する奨学金制度、p.74）

**【重要】** 大学・短期大学等で取得した単位の認定での注意

大学・短期大学等で取得した単位の認定申請をした場合は、大学での成績評価（「秀」「優」「良」「可」）は適用されずすべて「認定」として処理を行い、本校での成績評価（GPA）の対象外とする。本校での成績評価が必要な場合は、大学・短期大学等で取得した単位の認定申請をせずに、本校で改めて当該科目の履修をすること。